第 18 回 ジョン・ケンドリック杯小・中学生英語スピーチコンテスト

2011 年12月10日、和歌山支部が開催。 子どもたちが熱弁ふるう！

和歌山支部では、2011 年 6 月 19 日に支部が誕生して最初の活動として、小・中学生を対象にした英語スピーチコンテストを同年 12 月 10 日、和歌山市中央コミュニティセンターで開催しました。

このコンテストは、1791 年和歌山県串本の紀伊大島にある樫野を訪れ、日米交流の扉を開いたとされるジョン・ケンドリック（John Kendrick）船長を顕彰することを目的として 1992 年に始まり、17年間連続してボランティアの手により開催されてきました。諸事情により、3 年前の第 17 回大会を最後に休止となっていたものの、再開への周囲の期待が大きいことから、このコンテストを “PAX MUNDI PER LINGUAS ― 言語を通して世界の平和を” という京都外国語大学の建学精神を活かせる社会貢献活動のひとつとして位置付け、第 18 回より和歌山支部が受け継いでいくこととなったものです。



コンテストでは、家族、英語指導者、審査員、来賓、校友会関係者、実行委員スタッフら合わせて約 80 人が見守る中、小学生 12 人と中学生 10 人が、日頃の英語学習の成果を披露しました。小学生の部では、イソップ物語から選ばれた「The Hare and the Tortoise」、「The Crow and the Fox」、「The Wind and the Sun」といった課題文を英語で暗唱し発表、中学生の部では、将来の夢や、興味のある落語のこと、東日本大震災後に自分は何ができるかを考えたことなど、自由タイトルの自作英文を 4 分以内にまとめ発表しました。子どもたちが一生懸命に発表するスピーチのひと言ひと言が、私たち聴く者の心に大きく響き、たくさんの感動を与えてくれました。



京都外国語大学より Jeff Berglund 外国語学部教授、河野弘美短期大学キャリア英語科講師、校友会教志会田中道博会長の 3 先生のほか、和歌山県立高校英語指導員の外国人も審査員に招き、暗唱度、スピーチの内容や発音、アクセント、ジェスチャー、声の大きさ、発表態度などにポイントを置いて審査が行われました。

スピーチ終了後、“異文化体験の申し子” Berglund 先生から小・中学生への激励の言葉をいただきました。その中で先生は、「外国語を学ぶこと、それと同時にその国の文化を学

ぶことも大切」と強調され、笑いを誘う流暢な関西弁を駆使したお話に、大人のみならずスピーチを終えてほっとした子どもたちも笑顔で聞き入っていました。次に、河野先生からもお話をいただきました。「私が小・中学生のころ、このように上手にスピーチができただろうか」と感心された様子で、今後もさらなる学習を重ねるよう激励くださいました。

審査の結果、小学生の部では、課題文「The Hare and the Tortoise」を発表した田辺市立会津小学校 6 年の佐武夕佳さんが、中学生の部では、「Sowing for the Future」と題してスピーチした海南市立下津第一中学校１年の宮下みなみさんが、それぞれ最優秀賞を受賞しました。出場者全員に記念写真と審査員 4 人直筆のコメントペーパー（写し）が送られ、今後のスピーチ上達に役立ててもらうことにしました。子どもたちにとって大きな励みになることでしょう。





地元のテレビ局が本大会の取材に訪れ、当日夕刻のニュースで放映されたほか、地域情報紙のインタービューも受けました。京都外国語大学や校友会の活動を少しはアピールできたものと思っています。

英語はいろいろなところで習えますが、多くの人前で堂々と話す機会はあまりありません。私たちは、このスピーチコンテストが子どもたちの英語に対する興味や学習意欲をかきたて、ひいては広く世界に目を向けるきっかけとなることを期待しています。

また、小学校高学年で外国語や外国文化を学ぶ授業が始まったこともあり、和歌山支部では小学生から出場できるこのスピーチコンテストが、地域社会や教育関係者のご理解・ご支援をいただきながら、より活発なものになるよう努めてまいります。

なお、このコンテスト開催に際し、京都外国語大学・京都外国語短期大学および校友会から審査員の派遣、賞品の提供などでご支援いただきました。

（実行委員長　松本孝治＝S42A）

≪問合せ先≫
和歌山支部　松本孝治
TEL/FAX ： 073-433-2914
E-MAIL ： pinebooks394@zeus.eonet.ne.jp